

授業科目 理学療法学基礎理論

科目コード番号

【担当教員名】 高木 昭輝	対象学年	2	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要】 かつて理学療法は物理療法、運動療法、日常生活動作訓練、装具療法の4つの柱で構成されていた。今日では、理学療法学となつて、基礎理学療法、理学療法評価学(診断学)、理学療法治療学、地域理学療法学、(義肢装具学)などの概念を包括すると考えられています。これら新しい概念と、理学療法の過程としての評価(診断)、治療計画、治療の実施、途中の再評価と理学療法プログラムの修正、効果判定について教授します。さらに理学療法の基礎理論として、関節可動域の理論、神経・筋機能の理論、運動制御・運動学習の理論、痛みの理論に加えて、医療専門職と倫理についても教授するとともにグループワークを通じて、一人一人発表を行ってもらう予定です。

【使用図書】

教科書・参考書等	書名等	著者名	発行所	発行年・価格・その他
教科書	理学療法のとらえかた - clinical reasoning	奈良 勲 編集	文光堂	2001年、4,800円+税
参考書	リハビリテーション基礎医学第2版	上田敏、千野直一、 大川嗣雄 編集	医学書院	1999年、11,000円
	理学療法のとらえかたClinical Reasoning 疼痛の理学療法 理学療法MOOK 3	奈良 勲 編集 鈴木重行、黒川幸雄 編集	文光堂 三輪書店	2001年、4,800円+税 1999年、3,800円+税
	カラーで学ぶ解剖生理学	洲崎悦子 他 訳	医学書店	1998年、5,600円+税
その他配布資料	主に高木がプリントを用意する。			

【評価方法】 授業への貢献度(日常の授業参加、グループワーク)、出席、期末試験等を総合的に評価します。

【履修上の留意点】

学生は、一方的な受講だけの受身の態度は望ましくありません。質問、討論が必要と考えます。

【本科目の一般教育目標:GIO (General Instructional Objective)】

理学療法学の定義、歴史、理念、対象を理解する。関節可動域、筋・神経機能と障害、痛み、リスク管理と理学療法の関係を理解する。

【行動目標:SBO (Specific Behavioral Objectives)】

1. 理学療法の定義、対象を説明できる。
2. 理学療法学の歴史、理念を説明することができる。
3. 理学療法学における評価と治療計画の決定過程を説明することができる。
4. 理学療法における治療の実施とリスク管理、治療方針の修正について説明することができる。
5. 理学療法の効果について説明することができる。
6. 拘縮の原因と関節可動域運動を説明できる。
7. 神経・筋の機能と機能障害および機能障害回復学と理学療法学とを説明することができる。
8. 理学療法と運動制御・運動学習との関係を説明することができる。
9. 「痛み」について、理学療法との関係で説明することができる。
10. 理学療法学とバイオメカニクスとの関係を説明することができる。
11. 理学療法に必要な倫理、法規、管理について説明できる。

授業計画

教室

回数	授業内容	SBO 番号	担当教員	教授 学習法	学習課題 又は 備考
1	原論の復習とオリエンテーション 理学療法概念 I (理学療法の定義、歴史、理念、対象と目的)	1 と 2	高 木	講 義	・復 習 (知識の想起)
2	理学療法における評価 (理学療法診断学) と 治療計画	3	高 木	講 義	・理学療法学における評 価 (理学療法診断学) 治 療計画を考える (想起)
3	理学療法における治療 (理学療法治療学) の実施と 治療方針の修正、リスク管理を含む。	4	高 木	講 義	・治療の実施 (理学療法 治療学) (想起)
4	理学療法の効果判定	5	高 木	講 義	・理学療法の効果判定 (Effect based Physio- therapy) (想起と解釈)
5	関節可動域の理論 (拘縮と関節可動域運動との関係)	6	高 木	講 義	・主にと関節可動域運動 との関係 (想起と解釈)
6	学内でグループワーク I (詳細に準備する) 主に学内図書館などを利用する。学外施設は当該時 間外に利用する。	6	高 木	自 習 各自の分担 を果たす。	・発表の準備 (高木が援 助) (態度・習慣の受け入れ、 解釈)
7	学内でグループワー クII (詳細に準備する) 主に学内図書館などを利用する。学外施設は当該時 間外に利用する。	6	高 木	自 習 各自の分担 を果たす。	・PowerPoint, OHP など を用い発表する準備。(高 木が援助) (態度・習慣の受 け入れ、解釈)
8	グループワーク 発表 I (全て学生が進行させる)	6	全員発表	全員発表	・発表時間内で詳細に発 表する。(態度・習慣の受け 入れ、解釈) 知識の想起
9	神経・筋機能の理論 (感覚神経、筋、運動神経の 関係) (筋力低下、筋力増強の理由)	7	高 木	講 義	
10	学内でグループワーク (発表の準備) 神経・筋機能について (高木が援助) (具体例列举) (物理療法と運動療法の関係にも言及する)	7	高 木	自 習 各自の分担 を果たす。	・主に学内図書館などを 利用。学外施設は時間外 に利用。(態度・習慣の受け 入れ、解釈)
11	グループワーク 発表 II 全て学生が進 行させる。(物理療法と運動療法の関係に言及)	7	全員発表	全員発表 講 義	・時間内で発表。(態度・ 習慣の受け入れ、解釈) ・知識の想起
12	運動制御・運動学習の理論および痛みの理論、バイ オメカニクス	8、9、 10	高 木	自 習	・主に学内図書館などを 利用。学外施設は時間外 に利用。(態度・習慣の受け 入れ、解釈)
13	学内でグループワーク (発表の準備) 上記 (12) について発表する。高木が援助する。	8、9、 10	高 木		
14	グループワーク発表 III 全て学生が進行させる。 および医療専門職と倫理 (倫理、法規、管理)	8、9、 10、 11	全員発表 講義 (高 木)	全員発表 と講 義	・発表時間内で詳細に 発表する。(態度・習慣の 受け入れ、解釈) ・知識の想起

その他